

主な意見、要望等	市長、担当部署の回答、対応状況等	担当部署	最新の進捗状況等
自治会離れと自治会退会者が続いている。	加入率向上や地域コミュニティ活性化などの取組みについて、好事例を取りまとめ、校区長や町会長に情報提供するよう担当課に指示している。	自治振興課	今後もそれぞれの事情に応じて個別に対応するとともに、校区長会議等を通じて適切に情報提供を行ってまいります。
高齢化が進んできている。若者が興味が沸くまににして欲しい。	天神山校区も高齢化が進んでおり、公営住宅の空きも多いと聞くと、住民によって花火大会を実施するなど、地域コミュニティが活発な地域であると認識している。	企画課	令和8年度施政方針に基づき、「子育て世代に選ばれる岸和田」「教育の充実」「スポーツによる地域の活性化」に資する各種施策を推進しています。
地域に子どもが少ない。少子高齢化岸和田の未来を発信する子育てしやすいまちに。	第2回定例会市議会の補正予算案で、選挙公約に掲げた施策を盛り込んでいる。	企画課	子育て支援策の効果的なPRなど、総合計画第1期基本計画に重点目標として掲げ、各種施策を推進しています。
市長選挙活動期間のタウンミーティングに参加した。市内全域で取り組まれると聞いたが、継続が力と思う。このタウンミーティングを市政に反映させることを期待する。	しっかりと取り組みたい。今後、土日をを活用して全校区を回りたい。24校区全て回るスケジュールで考えている。	広報広聴課	市長によるタウンミーティングにつきましては、今年度も実施する予定です。
天神山小学校の廃校はやめてほしい。空き家が増え、子供も減っている。小学校は全校児童89名と、とても素晴らしい適正規模で子どもたちも幼稚園児とともに、生き生きと成長している。	本市も段々と変化してきている部分があり、その部分をしっかりと伝えながら、地域づくりをしていかないといけない。話し合いをしながら進めたい。連携を密にしたい。	学校適正配置推進課	学校配置の適正化については、小規模化による教育環境への影響が懸念されるため、引き続き取り組みを推進します。
震度7地域なのに防災対策が連絡網だけで、必要なトイレ、食事などの備蓄品が用意できていない。	本市では、基本的に備蓄品等は集中管理しており、災害時には備蓄拠点から避難所等へ配送するシステムである。食料品は各中学校（当該校区は葛城中）に相当数備蓄している。天神山小には、簡易トイレとベッドが少量あるのみ。	危機管理課	備蓄物資の配備について、下記のとおり充実を図っています。 葛城中学校（体育館倉庫C・教員室）：既存のアルファ米や毛布、簡易トイレ、ベッドに加え、水、携帯トイレ、災害用トイレ（組立式洋式水洗・ラップ式計2基）を新たに配備いたしました。 天神山小学校（防災ルーム）：既存の簡易トイレやベッド、パーティションに加え、水、レトルト食品、毛布、携帯トイレ、災害用トイレ（組立式洋式水洗・ラップ式計2基）を新たに配備いたしました。
花火大会の再開の計画はあるのか？	阪南2区は、花火大会を開催していた頃から会社がたくさん操業しており、そこで花火を打ち上げると24時間稼働の会社にすごく影響を与えてしまうため難しい。何か違う方法・場所の可能性を探ってきたい。	産業政策課	港湾地区内における花火の実施場所や手法について、長年にわたり調査・検討を重ねてまいりましたが、安全面の懸念や交通規制の影響等から、適地の選定は困難な状況です。
天神山幼稚園は、岸和田市唯一のモデル園なのに廃園案が出されたまま。残してほしい。	こども園は、幼稚園と保育所の機能を併せもつ施設である。人口減少は全国的な傾向であり、統合していくのは致し方ないという部分はあるが、市民に理解をいただきながら進めていかないといけない。また、保育士の確保も大変苦勞しており、保育士の数が少なくなると、園自体を存続していくのも非常に難しくなる。その辺りも考えながら進めており、ご理解いただきたい。	こども政策課	現在、幼保再編個別計画【後期計画】の策定に取り組んでいます。なお、天神山幼稚園の廃園に係る具体的な進捗につきましては、現時点で新たな決定事項はございません。
これは前市長が掲げた問題であって、今の状況ではこの話はないのかなと。天神山小学校幼稚園、幼小一貫校のモデル校に数年前になった。ただ、今後どのようにやっていくかは、誰が見ても、もうしょうがないというところに至るまで、小学校幼稚園は残して欲しいという気持ち。これは地域の声だと思う。前市長が考えたことや再編は白紙に戻して、地域の意見を聞いて新たに考えてほしい。	幼保再編は本市において必要であり、公立施設の老朽化を解消していく目的もあるため、計画はすすめていきたい。再編前と再編後で年間約12億の財政効果がある見込みであり、この財源を活用して様々な子育て支援に努めていきたい。	こども政策課	現在、幼保再編個別計画【後期計画】の策定に取り組んでいます。なお、天神山幼稚園の廃園に係る具体的な進捗につきましては、現時点で新たな決定事項はございません。
高齢者で運転免許返納すると、足がバスしかない。バスの本数も1時間に2本あればいいとこ。ローズバスとか地域に自由に買い物が行けるような形のことは考えてほしい。	路線バスの本数については運転手不足なども含めてバス事業者と協力しながら何とか路線を維持している状況であり、ローズバスについては路線バスを補完するものであると、天神山校区などへの導入は難しい状況である。天神山校区は公共交通の空白地域ではないものの、高低差もあり公共交通が利用しにくい地域であることは認識しているので、黄金塚地区や春木大芝地区や黄金塚地区での取り組みを通じ、「地域主体による生活交通導入支援に係るガイドライン」を策定するなど、地域の取組への支援体制等について準備を進めている。	交通まちづくり課	「地域主体による生活交通導入支援に係るガイドライン」に基づき、引き続き地域における取り組みへの支援を推進します。
高齢化が進む中、このまちをどうしていくかというのは、自分たちが考えなければならないことだと思っている。市もそれぞれのまちづくりを援助してもらえたら。ここをモデルに少しでも、どんなまちづくりができるか話し合いも持って考えてくれたらとても嬉しい。	ご意見として承る。	企画課	自治基本条例の理念に基づき、市民自治都市の実現に向けての取組を推進していきます。
本当に嘘かわからないが、ひきこもり不登校が小・中学校併せて500人。両親がものすごいプレッシャーで、学校休んだらいいのだが、両親はどうしても学校行けと言う。結局行かず言うこと聞かない。虐待の予防のために両親をもう少しサポートする活動とかをしていただきたい。	フリースクール等へ自ら足を運べない家庭があることは承知している。このような社会から孤立した「見えない家庭」を行政としてどのように探し出すかについて、一つの案としておむつの宅配を考えている。これは単なる経済的支援ではなく、大きな荷物を運び入れることをきっかけに、家の中の様子が判れば、SOSの兆候を早期に察知することができる。現在、民間のフリースクール等が学習の場を提供してくれているが、行政としては、そこにも辿り着けない最優先の支援対象者を特定し、セーフティネットへと繋ぐ役割を担うべきであると考えている。	学校教育課	市内フリースクール団体の代表者との情報交換会を開催し、不登校の現状や各団体の取り組みに関する情報共有を図っています。また、不登校対策として、適応指導教室「エスバル」の運営をはじめ、出張エスバルやオンラインエスバル等の実施を通じて、学校内外における多様な居場所づくりを推進しています。
広報紙配布の件で、自治会会員以外に配っていいのかどうか意見がある。自治会、町会が配布するのは当然のことだけど、うちも90％ぐらいの加入率があり10％が自治会に未加入なので、その方々に配るべきだという意見とそこまでせなあかんのかという意見がある。市はどうお考えなのかという点と、天神山には自治会がないところがありますが、そこも配っているのか？	広報紙を市民に配布する義務は自治体側にある。本市は以前から町会を通じて全戸配布している。その中で、最近町会に入られていない方も増えてきており、市内の各所、市民センター、郵便局、一部のコンビニエンスストア、駅頭に配架している。体の不自由な方と高齢で取りに行くことが難しい方々については、個別で配布しており、町会以外の自治組織などは、シルバー人材センターを通して配布している。	広報広聴課	
広報紙の配布について、私たちが協力するのは当たり前で、残る10％を配るのはそんな難しいことじゃないので、配らせてください。	好意で配られている校区もある。協力いただけると、市としても非常に助る。	広報広聴課	

子育て教育に、市として予算をつけて力を入れてほしい。子どもを育てることは、未来の市を豊かにする。	市でもいろんな取り組みを教育の場でしており、試行的に城東小学校でA 1ドリルというのをしている。全体的に幅広くたくさんの小学校でその授業が受けられるようにしていきたいと思っている。今ある小学校を新しく建設するのは市の財政として許されるべきところではないと思うので、今後、希望のあるところから、小中一貫校や小学校だけの統合とか、ハード面の環境整備をやっていきながら、いい教育を受けるような施設をつくれたらと思っている。	学校教育課	令和8年度より市内すべての小中学校へA1ドリルを導入し、児童生徒一人ひとりに最適な自主学習や家庭学習の実現、および個別最適な学びの推進に向けた準備を進めています。
本市は税収入が少ない。本市はお金がないから、良い教員が他の市町に行ってしまう。給料が安いから。ふるさと寄附をもう少し頑張って税収増やしてもらいたい。	本市の財政状況と教員の配置は関連がなく、教員は府の職員であって、府下同一の賃金基準である。教員は日々、熱心に業務に取り組んでいる。なお、ふるさと寄附については、企画課がウェブサイトの刷新や見せ方の工夫に注力している。	学校教育課	
他市の庁舎は、新しく建替えられているが、岸和田市は古いままだ。	新庁舎については、opsol福祉総合センター横の敷地への建設が決まっている。	庁舎建設準備課	
だんじり祭りが岸和田市の停滞を招いているように思う。一部の市民だけが楽しんでいる祭りに市政が力を入れすぎではないかと思う。	だんじり祭りは自主運営・自主警備がモットーであり、市は後方支援の立場。だんじり祭り、文化の存続について一定の理解をしながら進めていきたい。	観光課	
お城やだんじり祭りを、うまくふるさと寄附返礼品の何かに使えないか？	ふるさと寄附はさらに力を入れていきたい。返礼品の拡充やウェブサイトの見せ方を工夫することは大変重要である。	成長戦略課	返礼品協力事業者は108社、返礼品数は約1,545品目に増加した。今後も引き続き、新規開拓を推進します。
だんじり祭りのスペシャルシート、カンカン場では相当高額らしい。そのようなものを返戻品にするとか、本市はお城があるので、祭りをうまく利用して、だんじりめぐりという商品とか、だんじりをうまくお金に変えられることをするとか。水ナスは泉州の岸和田以南では、全部返礼品に入ってる。玉ねぎは岸和田が発祥の地と言われており、神須屋町に石碑がある。海だったら大阪湾は昔からチヌが湧く。漁協・漁連と協力して、このあたりも返礼品になるような、漁協・漁連の方にもお金が落ちるような仕組みを考えたいと思う。	本市は黒鯛（チヌ）、シラスなど、漁獲高が府内ナンバーワン。このことをもっとPRし、そこで得られた収益を市民の皆様へ還元できるような施策を実施したい。来年11月15日には南海浪切ホールで第45回豊かな海づくり大会が実施予定であり、天皇后両陛下がご臨席される。この大会は、マスコミ等で大きく報道されると思うので、本市としても、全国から多くの来訪者呼び込めるよう積極的にPRしていきたい。	成長戦略課	返礼品協力事業者は108社、返礼品数は約1,545品目に増加した。今後も引き続き、新規開拓を推進します。
岸和田城は日本全国から見に来られる。国指定の有名な八陣の庭がある。ただ、この白砂がもう何十年も入れてないのがガタガタになっている。年1回お城まつりのときに1日だけ開放して皆さんに青海波という模様を描いてもらっている。そういうのを1日だけじゃなく、もっと皆さんに体験いただいたら、返礼品の1つにもなるかなと思う。	八陣の庭の白砂は、「岸和田城庭園（八陣の庭）整備計画」に基づき、白砂、その下の腐葉土、構造について調査を行い、令和10年度から白砂を追加していく予定。実際の施工は管理担当課の公園緑地課。また、八陣の庭の景石は、「岸和田城庭園（八陣の庭）景石補修計画書」に基づき、これまでに景石の劣化箇所へ特殊樹脂(接着剤)で崩壊防止加工を行ってきた。その手法は、他の城跡管理者からも注目され、参考にされている。なお、草の除去や砂紋の描きなおしなど、必要な手入れも公園緑地課が適宜行っている。	郷土文化課	「岸和田城庭園（八陣の庭）整備計画」に基づき、令和7年度は白砂の現状等に関する調査を実施しました。
岸和田駅前を活性化するためには、都市計画の見直しが必要だと考える。駅の海側商業地域で400%の容積率であるのに対して、駅の山側のエリアは300%或いは200%です。駅周辺にマンションが建設され定住人口を増やす政策を進めてほしい。	引き続き社会動態及び土地利用の動向等に注視し、適切な都市計画の変更を行っていく。	都市計画課	
市民病院が独立行政法人にならないで、市民のために十分命を守る施設として存続してほしい。	今後の経営形態については、市議会議員と一緒に勉強会を開いて検討したい。	市民病院事務局	今後の経営形態につきましては、地域連携等を考慮しつつ、市民が安心できる医療体制の維持を最優先に検討を進めています。
子育てを一番考えてとあるが、岸和田は出産数がどんどん減ってきている。できたら市内、近くで出産できるのが一番理想と思う。出産数がこれから増えていくためにも、産前からフォローしてくれたら嬉しい。	こども家庭すこやかセンター（こども家庭課）では、妊娠期から子育て期まで、面談・電話・訪問などによる切れ目のない相談支援を実施している。	こども家庭課	こども家庭すこやかセンター（こども家庭課）では、妊娠期から子育て期にわたり、保健師や助産師等の専門職による面談・電話・訪問などを通じ、切れ目のない相談支援を実施しています。
・市民病院は毎年14億円前後の赤字を出している。一方で和泉市は市民病院を指定管理者制度を導入し、毎年12億円前後の赤字が解消された。 ・経営形態が変わっても、病院そのもののレベルは下がらないと思う。 ・14億赤字になるのは理由がわかっているのか？	一般会計から病院事業会計への繰り出しは、総務省が示す公営企業繰出基準に基づいて行われており、その所要額の一部は国から一般会計に対して地方交付税等による財政措置がされている（令和6年度：繰出額1,400,000,000円、地方交付税措置額949,405,523円）。今後の経営形態については、市議会議員と一緒に勉強会を開いて検討したい。市民病院がなくなるといったことはない。	市民病院事務局	今後の経営形態につきましては、地域連携等を考慮しつつ、市民が安心できる医療体制の維持を最優先に検討を進めています。
市民病院で14～5年前に大きな心臓バイパス手術した。ある程度直ったら町医者に行けと言われた。そんなことすると余計赤字が増えるんじゃないか？	かかりつけ医と専門病院との機能分担は、効率的で質の高い医療提供体制を維持する上で極めて重要である。	市民病院事務局	
市民にも色々あるから、すべて聞く必要はないが、今日のように市民の声を聞く姿勢を貫いてほしい。	ご意見として承る。	広報広聴課	市長によるタウンミーティングにつきましては、今年度も実施する予定です。
市民サービスの向上はもちろん必要。その前に市職員の資質の向上も大変重要だと思う。市長と同じ方向に向かって頑張る職員を育ててほしい。給与を上げることも必要かと。	賃金下がっている現状を打破し、貢献に見合う待遇へ改善したい。給与体制を変えるのは非常に難しい。評価体制の再構築にも取り組みたい。	人事課	令和8年4月1日に人材育成基本方針を策定した。今後は同方針に基づき、人材育成の推進に努めます。
今日のスタッフさんに聞きたいですが、市長が代わって働きやすくなりましたか。市長は、楽しく職員さんが仕事ができるようにしてください。きっと岸和田市が良くなっていくと思う。	我々市職員は、市長が交代したとしても、組織として揺らぎなく業務を遂行している。	広報広聴課	